

記 事

◎第6回理事会(昭.30.11.16)出席者:藤井副会長,山本,江里口,飯田,星埜,後藤,上野,畠山の各理事,中川書記長,棒箸,朝倉,堀内の各主任書記。

議事:1)10月中の行事その他報告,2)土木会館の設計について委員会案を検討,3)昭和30年度土木賞委員会設置について次の各氏に委員を委嘱すること。

(本部)東 寿,伊藤令二,岡本舜三,佐藤輝雄,富樫凱一,当山道三,沼田政矩,広瀬孝六郎,福田武雄,本間 仁,町田 保,松村孫治,
(支部)今 俊三(北海道),鶴見一之(東北),荒井利一郎(中部),矢野勝正(関西),庄司陸太郎(中四),田中吉郎(西部)

(学会側)菊池会長,藤井,種谷両副会長,星埜編集部長,

4)日本学術会議へ昭和31年度文部省科学研究費等分科審議会委員候補者として青木楠男,安芸皎一,矢野勝正,本間 仁の4君を推薦すること,5)日本学術会議ドキュメンテーション研究連絡委員会へ国際十進分類法小委員会,建築分科委員として井口昌平君を推薦すること,6)耐震工学委員会を設置し次の諸氏に委員を委嘱すること。

委員長:沼田政矩

委員:○東 寿,○岡本舜三,神谷貞吉,小西一郎,近藤利八,田原保二,寺島重雄,友永和夫,畠山 正,平井 敦,星埜 和,松尾春雄,村 幸雄,○最上武雄,

幹 事:久保慶三郎 ○印は国内委員会との連絡委員

7)委員会委員追加

a)大阪駅沈下対策委員会:委員に斎藤迪孝君,幹事に白石俊多君。

b)コンクリート示方書改訂委員会:道路分科会に大野利幸,岩間 滋,ダム分科会に水越達雄,村田清逸の各君。

8)会員名簿を正員以上に配布すること,9)会誌編集方針について編集企画委員会の報告を検討,10)フランス STUP 社長ビルジャー氏の講演会を11月28,29日頃開催すること,11)荷役研究所発行“荷役と機械”を会誌と交換すること,12)会員入退会承認。

◎各種委員会

1. 会誌編集委員会(昭.30.11.22)出席者:星埜,後藤正副委員長,荒井,成岡(代石原)正副委員長,猪股,大宮,針ヶ谷,北岡,岸(代),久保,関,竹下(代),林(泰)各委員,中川書記長,徳平幹事,岡本編集部員。協議事項:1)会誌および論文集進捗状況報告,2)投稿論文および新規受付論文審査委員の

決定,3)依頼原稿の件,4)学会誌編集方針の件,5)41巻1号は国際会議特集号として次の論文を予定した。

安芸皎一:国際原子力平和利用会議について,矢野勝正:第6回国際水理学会大会について,小池 誉:第5回国際大ダム会議について,国分正胤:大ダム会議コンクリート国際小委員会の現況,畑野 正:欧州におけるダムの設計および施工について,その他。

2. 第6回学会誌編集小委員会(昭.30.11.8)出席者:後藤副委員長,白石,関岡委員,徳平幹事,岡本編集部員。協議事項:40巻12号会誌編集につき最終的打合せを行った(64ページ)。

3. 第6回学会誌抄録委員会(昭.30.11.8)出席者:左合委員長,樋口,嶋,久野,稲田(代鈴木),山口,加藤の各委員,千秋幹事,徳平編集幹事,岡本編集部員。協議事項:1)40巻12号登載用として7編を予定(割当9ページ),2)繰越18編,新規5編について協議した。

4. 第3回海岸工学用語小委員会(昭.30.11.1)出席者:市栄,鶴田(代石綿),肥後(代加藤),岸(代佐藤),堀川の各委員,議事:市栄委員から海洋気象に関する用語について説明,質疑応答を行った。第4回同委員会(昭.30.11.22)出席者:田中,岩垣,市栄,岸,鶴田(代石綿),肥後(代加藤),堀川の各委員及び佐藤君,議事:東京及び関西委員との意見交換を目的として開催。堀川委員から状況報告,田中委員より原案作製についての説明があり,今後の方針について討議し,用語選択の基準参考文献を明らかにした。

5. 第27回コンクリート鉄道構造物委員会(昭.30.11.7)出席者:吉田委員長,沼田,本間,高橋,最上,友永,坂本,高坂(代赤沢),宮沢(代小川),大槻(代三浦)の各委員,原口,白石,山内(代多谷),川口,深谷,松本の各幹事,中川書記長,棒箸主任。議事:1)経過説明と今後の議事進行方法について協議,2)各論と一般構造細目との目次決定。

6. 第7回土木会館建設委員会(昭.30.11.9)出席者:金子委員長,金子,佐藤,沢(代川口),塩沢,立花,渡辺の各委員,関東地建桜井宮繕部長,角田建築第一課長,下山忠廉の各氏,中川書記長。議事:1)金子委員長から経過説明,2)下山氏の造園計画及び維持方法説明,3)建物の設計説明の結果,位置及び部屋の配置その他設計どおり了承,4)工事費の支出については理事会の承認を得ることとし,将来の運営についてはなお研究のこと,5)全体計画を一葉にまと

めた図面を作製すること。

7. 第2回土木用語常識事典委員会(昭.30.11.10)出席者:片平委員長,市浦,奥田,小林(代佐々木),斎藤,坂本,肥後(代),小林(代長尾),寺島(代水谷)の各委員,中川書記長。議事:1)選定用語中重要度を考慮してABCに分類して再審議すること,2)例として材料,コンクリート,都市計画の部門について審議しABCをつけた。

8. 第3回編集企画委員会(昭.30.11.14)出席者:星埜,後藤正副委員長,左合抄録委員長,竹下,林徳平の各委員,中川書記長。議事:1)前回審議した学会誌及び論文集の内容,ページ数の配分,委員会の構成等について再審議,2)編集(改訂)予算について,3)学会誌名,表紙の体裁,論文審査委員会の構成について。

9. 海岸工学委員会(昭.30.11.21)出席者:本間委員長,鈴木,渡部,安芸の各顧問,岸,太田尾,新妻,石井,肥後,佐島,堀川,浜田,佐々木(代高須),市柴,多谷,石原,速水,岩垣,篠原,真嶋,田中,永井の各委員,中川書記長,椿箸主任。議事:1)本間委員長経過報告,2)今後の方針と内容について,a)明年は神戸市で開催すること,b)設計基準の基礎となることらを検討し,必要に応じ小委員会を設けること,3)用語委員会の進捗状況を説明し,今年度中に原案を作製し各委員の意見を徴する予定,4)石原委員から海岸工学(I・II・丸善出版)の内容説明,5)港湾協会及び全国防災協会からの援助に対し感謝の意を表し今回の講演集をそれぞれ100部贈呈すること。

10. 第28回コンクリート鉄道構造物委員会(昭.30.11.24)出席者:吉田委員長,高橋,岡本,国分,丸安,友永,高坂,坂本,宮沢(代高橋)の各委員,山内,川口,原口,三浦,杉田,尾崎,松本の各関係者。議事:1)版,ハリ,柱の目次の検討,2)1章一般構造細目1条の検討,3)斜め版,斜めラーメンを規定に入れること。

11. 第2回コンクリート示方書改訂主査委員会(昭.30.11.25)出席者:吉田委員長,国分,川口,畑野の各主査,樋口,深谷,伊東の各幹事,中川書記長。議事:1)無筋コンクリート分科会の原案について逐条審議,2)今後吉田委員長さしつかえないかぎり各分科会に出席し,促進すること。各分科会:無筋分科会(昭.30.11.16及び30),鉄筋分科会(昭.30.11.11及び14),ダム分科会(昭.30.11.2及び24)

◎講演会

1. 第2回海岸工学講演会(昭.30.11.21~22両日・運輸省大講堂において)第1回は関西支部主催のもと

に神戸市において開催し,非常に盛況であつたが,その後学会に海岸工学委員会を設置し研究を進めていたので第2回講演会を開催する運びとなつた。予定どおり21日10時より開会,本間委員長の挨拶に次いで下記の順序で講演を進めた。

海岸の波浪について	岸 力
砕波の機構(II)	理博 速水 碩一郎
海の波の解析概説	工博 田中 清
	工博○浜田 徳一
進行波による水底圧力の変動	光 易 恒樹
	長谷 直樹
Estuaryの水理について	理博 市柴 啓
	工博 嶋野 真三
突堤の及ぼす影響について	工博 水岡 仁
	○堀川 清司
	工博 石原 藤次郎
海岸堤防の設計,特にその有効高について	○岩垣 雄一
	鈴木 雄太
空気防波堤についてII(伊王島における実験その他)	理博○栗原 道徳
トランシットによる波浪の記録観測法	宇田 居 吾一
防潮壁に作用する波について	工博 渡部 弥作
新潟海岸の欠損について	山田 正平
港湾地帯の沖積層とその性質	工博○石井 靖丸
	倉田 進
海浜の平衡勾配と砕波による砂移動に関する実験	岩垣 雄一
	○樺木 享
海岸防砂堤に関する研究	工博 永井 狂七郎
河口漂砂の移動	久宝 保
河口閉塞とその防止策について	工博 佐藤 清一
(神戸川における河口処理の一例)	
漂砂と沿岸流について	真嶋 恭雄
漂砂とその測定について	理博 福島 久雄
	理博○溝口 裕
放射性ガラス砂を用いた漂砂の現場実験について	猪瀬 率雄

第2日午後は会場の都合により国鉄8階映写室において溝口 裕氏の漂砂とその測定に関するスライド説明と,アメリカ波長研究会議編,海岸工学の訳者である石原,田中,本間,佐藤,太田尾,永井,新妻の各氏からその著書の要点を説明し,午後4時盛況裡に閉会した。聴講者約200名。

2. 講演会(昭.30.11.29・国鉄8階映写室において)世界におけるプレストレストコンクリートの現状についてフランス STUP 社長ビルジャー氏の講演会を開催し,猪股俊司氏の通訳でスライドによつて説明され,のちロンドン飛行場のハンガーとフレシネの生涯とその業績についての映画があり,非常に有意義であつた。聴講者約100名。

写真-1 講演するビルジャー氏(通訳:猪股氏)



写真-3 五十里ダムの偉容



長はか工事関係者の説明を聞きつつ熱心な質問が続けられる。

五十里ダムの工事概要を次に示そう。

- (1) 企業者：建設省
- (2) 施工者：鹿島建設K K
- (3) 建設場所：栃木県塩谷郡藤原町地先
- (4) 河川名：鬼怒川支流男鹿川
- (5) 流域面積：280 km²
- (6) 総貯水量：55 000 000 m³
- (7) 有効貯水量：45 000 000 m³
- (8) 貯水池面積：3.1 km² (中禅寺湖の約1/3)
- (9) 型式：重力式コンクリートダム
- (10) ダム高：112m (丸ビルの高さの約4倍)
- (11) 堤頂長：295 m
- (12) 堤体コンクリート量：約 490 000 m³
- (13) 堤体勾配：上流1 : 0.06 下流1 : 0.82
- (14) 基礎掘削：約 290 000 m³

ダム地点の見学は帰途詳細に行うこととし、関係者に促されながらバスに乗り、上流の骨材採集場、海尻橋工事等をかけ足で見学し、再びダム地点に引返す。眼下一杯に広がる巨大なダムを眺めていると、今更ながら自然と人間の力の戦いのきびしきを感じる。このあたりさかんにカメラのシャッターがきられ、次々と現場の状態をキャッチしていた。約30分ほどで見学を終り、大半の会員は宿舎へ引上げたが、10数名の熱心な会員は係員の先導で次々とダム基部へ下りて行つ

図-3 五十里ダム上流面図

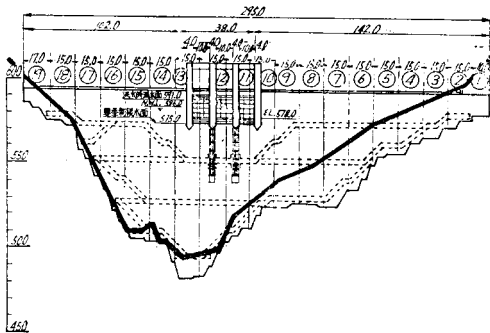
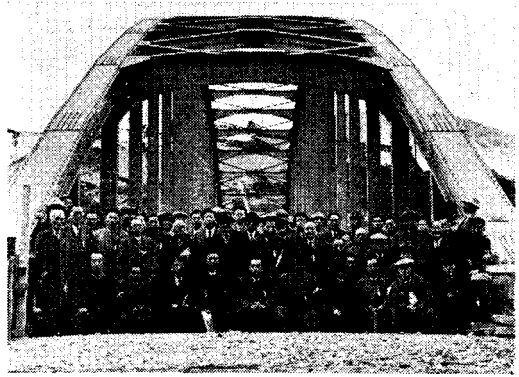


写真-4 海尻橋前にて記念撮影する一行



た。112 m の真下に立つて仰ぎ見るダムの偉容に、疲れもスリルも消しとんでしまうようであつた。かくてこの日の見学も無事済んで奥鬼怒の清流にのぞむ柏屋ホテルに帰館したのは予定より早く16時半であつた。

一風呂浴びて1日の旅塵を洗い流し、18時より柏屋ホテル大広間における懇親会にのぞむ。栃木県兼重土木部長の町重な挨拶があつたのち、星笠理事参加者を代表して関係各位の御歓待に対し謝辞をのべ、宴に移つた。せせらぎの音に耳を貸しながら地元のきれいだころのサービスに陶然としているうちに、荒井所長の手品をはじめ、つぎつぎと陰し芸が披露され、宴はつきないようであつたが、いつしか三々伍々部屋へ引上げ、寝についた。

明くれば12日、今日も雲一つない秋晴れ、朝食を済ませてバスに乗込み、9時宿舎を出発、第2日の行程へと向う。途中案内嬢の民謡を聞きながら今市へバックし、今市より日光街道をばく進する。昨日に引続き大根田所長に車上より舗装工事の実態を聞く。10時

写真-5 陽明門階段にて記念撮影

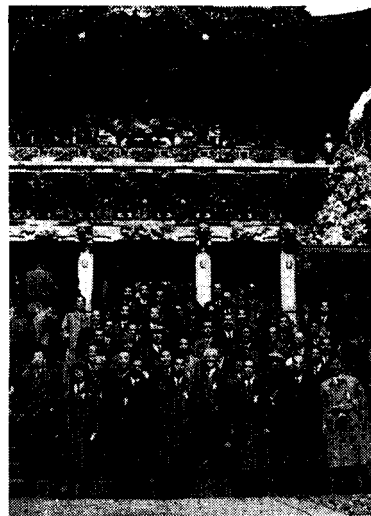


写真-6 イロハ坂有料道路



半日光市へ入り、ホテルを改造したといわれる日光市役所のモダンな建物の下へ車を止め、市の好意による絵ハガキ、パンフレットなどを頂戴し、東照宮を二手に分れて見物、ここでもさかんにシャッターが鳴る。金色に光り輝く陽明門階段にて記念撮影し、時間の許すかぎり詳細に見学、輪王寺境内で日光市の御好意による昼食をいただく。なお佐々木市長公務のため出席できない旨、手塚観光課長のお詫びと挨拶があつた。

13時日光発、男体山を正面に仰ぎつつ最後の目的地たる中禅寺湖へ向つた。左手に明智平行のケーブルカーを眺め、いよいよイロハ坂有料道路にかかる。大根田所長の苦心談を一同感慨深く聞きながら、この難工事をわづか3ヶ年の短時日で施工した関係者各位に深い敬意を払つた。

延長6080m、幅員平均3.5m、屈曲ヘヤピンカーブ30カ所、最小半径5m、勾配平均7%・最急17.2%というつづら折の道を、バスはあえぎあえぎ登つてゆく。

中禅寺湖へ14時頃到着、湖畔で斎藤栃木県土木部主事より中禅寺湖総合開発につき説明を受けたのち、小憩、しばし湖畔を散さくしてバスに乗り、華厳ノ滝へ……。エレベーターで100m下の滝壺へ下り。その雄姿を見物、のち再びバスで日光へ引返し15時半国鉄日光駅前で解散、それぞれ帰途についた。

この記事を終るに当り、地元栃木県当局、建設省関東地建五十里工事事務所、鹿島建設KK並びに日光市当局の行き届いた計画と御接待に対し深く感謝する次第である。参加者66名。

◎関係協会の動き

1. 日本工学会 第7回大会に関する打合せ(昭.30.11.24) 出席者：加茂会長ほか会員学協会長及び職員、土木学会から河北理事及び中川書記長出席。議事：1) 第7回工学会大会の準備経過概要報告ののち、行事、展示及び総務関係事項を担当学協会から説明、2) 日本工業総合展覧会実施案について説明、3) 同施設

委員を各学協会から1~2名11月末日までに推薦すること。

2. 建設省建築研究所では昭和30年度研究発表会を11月24,25両日同所講堂で開催した。

3. 日本規格協会では11月28~30日品質管理講演会を赤坂公会堂において開催した。

4. 日本道路協会では第3回日本道路会議を11月28日から12月2日まで産経会館で開催し、非常に盛況であつた。

5. 都市不燃化同盟では11月30日、上半期評議員会を開催し議事終了後、田中一君のソ連視察談があつた。

6. 土質工学会 (a) 三軸試験シンポジウム(昭.30.11.28) 日本大学工学部大学院において開催、研究発表星塾教授ほか8名、参加者72名。(b) 東京瓦斯KK豊洲建設工事現場におけるサンドドレーン工法による工事見学会(昭.30.11.29) 14時東ガス本社に集合、15.00~17.00現場において工事情況説明及び工事見学、参加者84名。

支部だより

1. 中部支部 第8回幹事会(昭.30.11.9) 出席者：杉戸支部長、荒井常議員、鈴木幹事長外15名、議事：1) 役員異動(国鉄、静鉄施設部長河合秀夫氏移動のため後任長浜正雄氏に評議員を依頼、三重県土木部砂防課長戸田福三郎氏転出のため河港課長片岡紀一氏に、富山県土木部道路課長岡田淳氏転出のため後任道路課長野田稔氏に幹事を依頼することに決定)、

2) 学生見学会(岐阜大学—10月27日、参加者32名、名古屋市高速度鉄道工事、金沢大学—10月31日、参加者25名、小松梯川橋脚工事及び片山津栄山瀧干拓工事見学)、3) 土木学会編集企画案について荒井常議員の説明により一応第2案を推すこと、なおさらに編集委員を増強するよう要望することとした。4) その他今後の行事予定として11月佐久間ダムの見学、12月学生見学会、1月講演会(大林愛知県土木部長、前田名古屋港管理組合副管理者、杉戸名古屋水道局長の講演)、3月の講習会の講師の依頼について、佐久間ダム見学会(昭.30.11.13) 晴天に恵まれた晩秋の佐久間ダムに集まる者120名、電源開発KKの厚意により永田所長の説明を受け午後2時まで佐久間ダム映画第1部、第2部を觀賞してのち2班に分れてバスに分乗しダムと発電所を見学し、係員の詳細な解説を受け巨大なダム工事に驚嘆しつつ有意義な見学会の幕を閉じた。

2. 関西支部 ソ連・中国視察講演会 (昭.30.11.)

12) 先般ソ連中国学術視察団に参加された下記2氏の講演で参会者約100名を得て有意義であつた。

- ソ連・中国の見方 京大教授 桑原武夫
- ソ連・中国の建設事業 " 矢野勝正

プレストレスト コンクリート講習会 (昭.30.11.)

18) 聴講者約270名、題目及び講師は次のとおりで盛況裡に会を閉じた。

- プレストレスト コンクリート設計施工指針の解説 川口輝夫
- プレストレスト コンクリート設計法について 猪股俊司
- プレストレスト コンクリート設計施工について 仁杉 巖

3. 中国四国支部 第7回学術講演会 (昭.30.11.)

26~27 両日・鳥取市において) 講演者および題目は次のとおりであつて非常に盛大であつた。

- 道路橋床板の設計用曲げモーメント 山口大 米沢 博
- 間隙水圧の測定 徳島大 梶原 光久
- 現場での砂の表面水量の簡易測定法 宇部興産 青木 完雄
- 宇野港代替施設について 第三港建 渡辺 義則
- 国道2号線広島西条間道路改良工事報告 中四地建 脇谷 直三
- 潮発電所建設工事ダム骨材簡別並びに輸送 中国電力 鈴木 喜久
- 鋼補剛吊橋の設計と架設の合理化についての実施例 中四地建 深谷 新
- 水平鉄筋の附着応力に関する実験 徳島大 荒木 謙一
- 小鹿県管発電所建設工事 鳥取県 杉橋 涉
- 圧気船離による旭橋太田川橋基礎工事 中四地建 齊木 礼行
- 杭の周辺摩擦に対する砂粒子の変位 広島大 林 公重
- フライアッシュを用いたコンクリート強度と養生 宇部興産 渡辺幸三郎

出水解析に関する一考察及びその適用例

- 関門の福水対策
- 戸倉トンネル漏水防止工事
- 横島繁船岸補修工事報告
- 千代川の河川処理
- 皆生海岸浸蝕対策
- 砂丘とその緑化 (特別講演)
- ソ連中国の建設事業 (特別講演)
- 潮発電所中部水室付差動調圧水槽
- 菟生川橋工事報告
- 映画: 佐久間ダム
- 見学: 砂丘見学

- 中四地建 藤井 郁夫
- 本山 本山
- 徳島大 小田 英一
- 角原 光久
- 中四地建 小川 和知
- 第三港建 山下 博通
- 中四地建 石黒 勲
- 鳥取県 角坂 仁忠
- 鳥取大 原 勝
- 京大 矢野 勝正
- 中国電力 長本 隆夫
- 中四地建 深谷 新

4. 西部支部 第14回西日本文化賞受賞候補者として上椎葉アーチダムダムの設計並びに施工に関し功績のあつた理由により、下記両氏を推薦中のところ、受賞決定し11月3日西日本新聞社3階講堂で受賞式を挙行政した。

- 宮崎県企画局綾川建設部長 緒方 惟明
- 九州電力KK土木部顧問 熊川 信之

第10回幹事会 (昭.30.11.11) 出席者: 和里田幹事長外各幹事、議題: 1) 会員名簿作成について、2) 西日本水害報告書今後の方針について、3) 研究発表会の開催について、4) 見学会、講演会の開催について、5) 幹事交替 (九州地建下川浩資君転勤のため後任として大平純久君を委嘱)、6) 主事交替 (九州地建齋藤治君転勤のため後任主事を内藤保太郎君に委嘱)。地区常議員 (国鉄西部副支配人根来幸次郎君および運輸省第四港建次長傍島 溱君が管外に転出したので、この後任として、それぞれ山口和雄君および田賀秀和君を推薦)

昭和30年11月分入退会報告 (昭.30.11.1~11.30)

- 1. 入会 25名 (特2級1, 正9, 准10, 学生5)
- 2. 退会 22名 (正6, 准15, 学生1)
- 3. 転格 27名 (准から正へ26, 学生から准へ1)

会 員 現 在 数 (昭.30.11.30.現在)

名誉員	賛助員	特別員	1級	2級	3級	正員	准員	学生会員	合計
19	30		29	72	125	5917	5758	1193	13143

昭和30年12月10日 印刷
 昭和30年12月15日 発行
 土木学会誌 第40巻 第12号 定価 100円
 編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川 一 美
 印刷者 東京都港区赤坂溜池5番地 大沼 正 吉
 印刷所 東京都港区赤坂溜池5番地 株式会社 技 報 堂
 東京中央郵便局区内 千代田区大手町2丁目4番地 電話和田倉(20) 3945番
 4078番
 発行所 社団法人 土 木 学 会 振替東京16828番